



はじめに

本構想は、これまでの厚岸町の現状や取組を踏まえ、地域防災の活動や自衛隊・ボランティアとの関わりなどについて、町民意見を踏まえた上で、福祉・防災・まちづくり等の厚岸町が抱える課題解決に資する機能を有し、人々が交流しコミュニケーションや地域活動が活性する場となる施設整備の考え方を基本構想として取りまとめるものである。

1. 厚岸町の概要

地勢、人口動向、土地利用

- 厚岸湾は天然の良港として古くから栄え、その沿岸に市街が形成
- 積雪量は比較的少ないが、地表の凍結が甚だしい
- 令和5年12月末時点で総人口約8,400人となっており、少子高齢化により人口減少が進行
- 国道44号、道道14号、JR花咲線が外部との主なアクセス手段
- 今後、尾幌系魚沢道路の整備により厚岸町へのアクセス性向上が期待



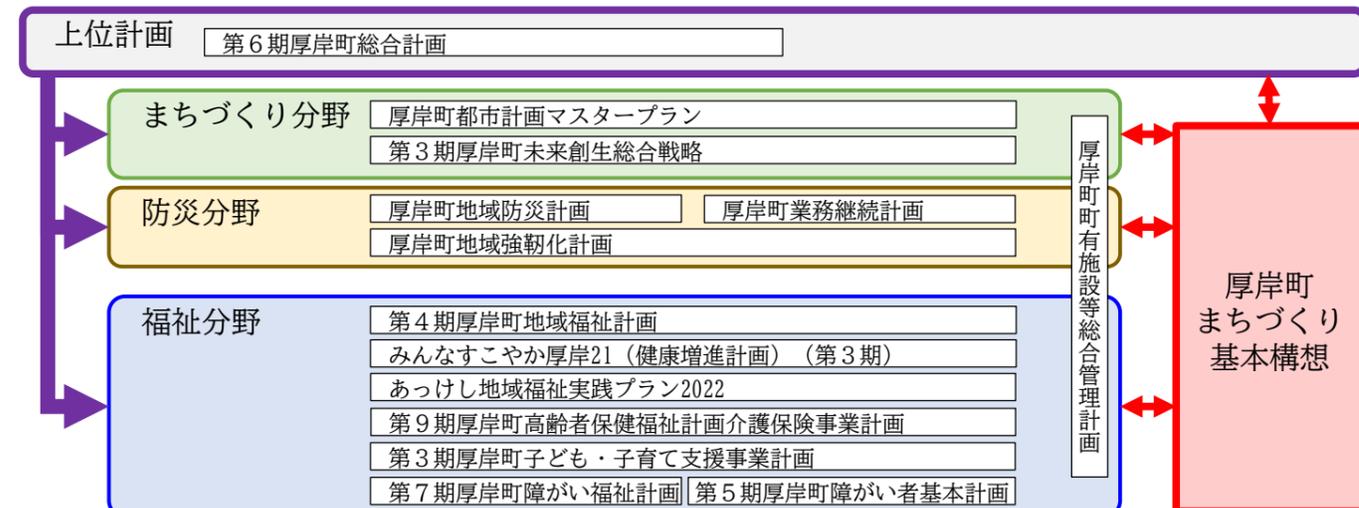
厚岸町周辺図

厚岸町と防衛省・自衛隊の関係

- 厚岸町の北東部には別海町・厚岸町・浜中町にまたがる矢臼別演習場が位置
- 厚岸町では自衛隊と連携を図り、訓練を実施しているほか、牡蠣まつり等で陸上自衛隊音楽隊の演奏会を実施する等、地域との交流を実施

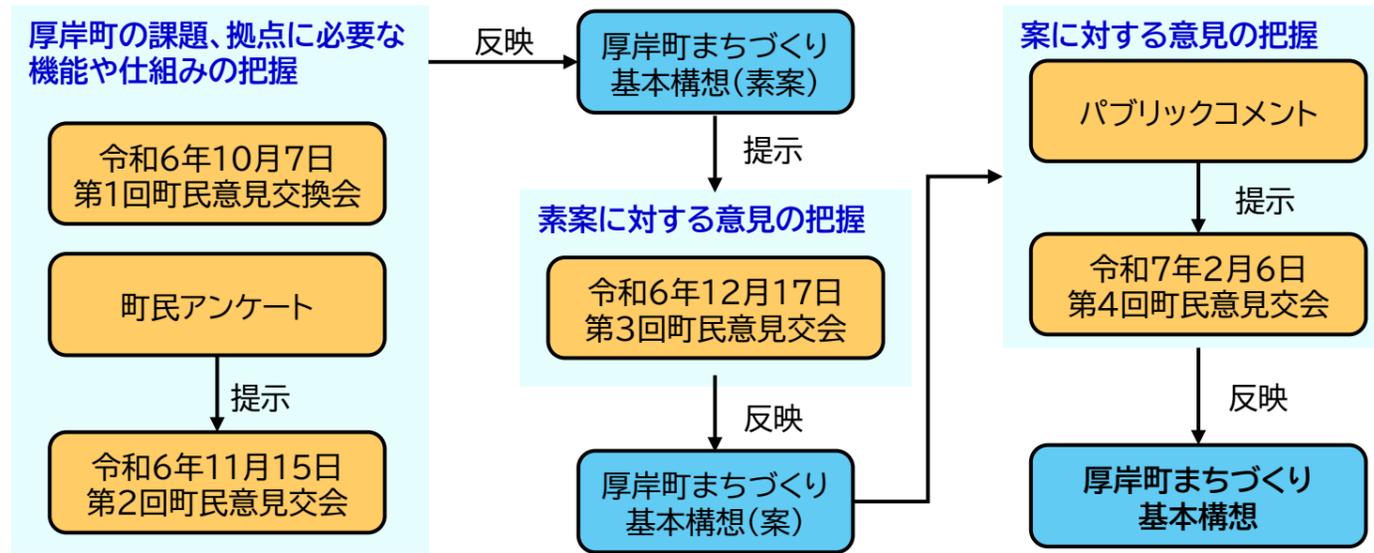
2. 各種関連計画

各種関連計画から、厚岸町の取り組むまちづくり、防災、福祉の施策を整理。



3. 町民意見の把握

以下の流れで町民意見を反映しながら基本構想を検討。



4. 課題の整理

福祉、防災、まちづくりに関する課題

1.~3.で把握した内容から福祉、防災、まちづくりの各分野の課題を整理。

	福祉に関する課題	防災に関する課題	まちづくりに関する課題
現状や関連計画を踏まえた課題	<ul style="list-style-type: none"> 高齢のひとり暮らし世帯の増加、要配慮者の増加への対応 福祉施設の老朽化対策、災害リスク低減 等 	<ul style="list-style-type: none"> 安全で安心な暮らしを続けることができる体制づくり 外部からの支援・応援の受入れ拠点の整備・調整 等 	<ul style="list-style-type: none"> 失われつつあるにぎわいの維持・創出 尾幌系魚沢道路の整備に合わせたアクセス道路整備 等
町民から挙げられた課題	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い世代の交流の場の提供 拠点施設のバリアフリー化 等 	<ul style="list-style-type: none"> 自助・共助意識や適切な避難行動の周知 フェーズフリーに配慮した災害対策、施設整備 等 	<ul style="list-style-type: none"> あらゆる主体が一体となったまちづくり 平常時、災害時両方の利用を見据えた新たな拠点整備 等
既往災害から想定される課題	<ul style="list-style-type: none"> 避難生活不安を抱く町民への対応(平成30年北海道胆振東部地震) 福祉支援チームの充実(令和6年能登半島地震) 	<ul style="list-style-type: none"> 冬季の発災を想定した資機材の確保(平成30年北海道胆振東部地震) 二次避難への円滑な移行(令和6年能登半島地震) 等 	<ul style="list-style-type: none"> 木造家屋の耐震化、耐火対策(令和6年能登半島地震)



課題の集約

以下の通り課題を集約。

現状

福祉分野

- ① 単身の高齢者の増加
- ② 要介護者の増加見込み
- ③ 福祉施設、担い手不足
- ④ 福祉施設の老朽化・災害リスク

防災分野

- ⑤ 地震による建物被害
- ⑥ 市街地の津波浸水想定
- ⑦ 津波向けの指定緊急避難場所の偏在
- ⑧ 役場庁舎の津波浸水
- ⑨ 道路・橋梁被災による孤立リスク
- ⑩ 冬季の避難、低体温症リスク

まちづくり分野

- ⑪ 交流・にぎわいの喪失
- ⑫ 公共交通需要の減少
- ⑬ 過疎化の進行
- ⑭ 尾幌糸魚沢道路の整備

課題

<平常時>

- **多世代、あらゆる主体の交流・にぎわいの場の創出(現状①⑪⑬に対応)**
人口減少により失われつつある交流やにぎわいを維持・促進する場を設けることが必要
そこには、老若男女、障がい者問わず、あらゆる主体が携わるよう留意することが重要
- **コミュニティ活動のネットワーク形成(現状①⑫⑬⑭に対応)**
地域のつながりや支えあいの意識を醸成し、町民の間でコミュニティを広げていくためのネットワークの形成が必要
町民間の意識的なつながりだけでなく、広域活動を促進するため尾幌糸魚沢道路との結節に留意した交通ネットワークの充実も重要
- **福祉施設の更新・機能向上(現状②③④⑤に対応)**
特別養護老人ホーム心和園が老朽化している上、災害リスクを有していることから更新や機能向上が急務
- **防災対策、行動に関する意識啓発(現状⑤⑥⑦⑨⑩に対応)**
地震・津波による甚大な被害が想定される上、地形等から避難時の課題が顕在
これらを町民に周知し、自助・共助意識の向上が必要

<災害時>

- **避難場所等の充実(現状⑤⑥⑦⑩に対応)**
厚岸町は津波災害のリスクが比較的高く、多くの被害が想定されるが、津波向けの指定緊急避難場所の中には、周辺に土砂災害リスクを有する箇所が多数存在
冬季の発災も想定し、災害時に町民の命をつなぐための避難場所等を整備することが必要
- **避難行動要支援者の避難体制構築・避難生活支援(現状①②③⑥⑦に対応)**
高齢者や要介護者が多く増加傾向にあり、災害リスクのあるエリアに多く居住していることから、災害時に避難行動要支援者が多数存在
発災直後の一時避難や避難の長期化を想定し、安全の確保、必要な福祉サービスの提供の維持が可能な体制や拠点整備が必要
- **広域応援体制の充実(現状⑧⑨⑭に対応)**
大規模地震時には厚岸大橋の寸断等で孤立集落の発生が想定
尾幌糸魚沢道路を介した広域応援ルートや活動拠点の整備が必要

5. 基本構想

各種計画の方針や把握した町民意見を踏まえ整理した厚岸町における防災・福祉・まちづくりにおける課題を総合的に勘案し、以下の通りまちづくり基本構想として基本理念、整備目標及び整備方針を整理。

課題

福祉施設の更新・機能向上

避難場所等の充実

広域応援体制の充実

多世代、あらゆる主体の交流・にぎわいの場の創出

避難行動要支援者の連携体制構築・避難生活支援

コミュニティ活動のネットワーク形成

防災対策、行動に関する意識啓発

基本理念

みんなで支え合い、ヒト^{※1}を未来へとつなぐ、福祉・防災機能の充実

整備目標

① まちが丸となって支える福祉拠点の形成

② 災害時に要支援者も地域住民も安全を確保できる機能

③ 多様な主体との交流・地域活動の活性化につながる場

④ フェーズフリー^{※2}に配慮した平常時利用、災害時利用の両立

整備方針(あり方)

<立地>
災害リスクの低い場所
ネットワーク化
アクセシビリティ^{※3}向上

<活用イメージ>
あらゆる主体の交流
自衛隊等による地域活動
災害時の防災活動

<規模>
将来の高齢者人口を踏まえた福祉施設

※1 ヒト：住民、子ども、高齢者、介護者、観光客等多様な主体

※2 フェーズフリー：平常時と非常時の区別なく活用できるような製品やサービスをデザインする考え方

※3 アクセシビリティ：だれもが製品、サービス、環境に平等にアクセスし、利用できるようにすること

6. 今後の進め方

本構想に基づき防災機能を備えた複合施設の整備を推進予定。
※各種検討、調査の状況によっては予定が前後する可能性有。

